

徒然なる1ページ2014

～俳句へのいざない～

俳句 秋の季語 上巻

FACEBOOK 投稿分

公益財団法人大谷教育文化振興財団

徒然なる1ページ制作チーム

『徒然なる1ページ 2014 ～俳句へのいざない～』は 2014 年(平成 26 年)FACEBOOK に投稿した日本独自の文化である俳句の季語を季節(春・夏・秋・冬)ごとに、それぞれ 3 巻(上巻・中巻・下巻)にわけて刊行しております。

八月十日

今日の季語のご紹介は“蛸”(ひぐらし)です。

通称「かなかな蟬」とも呼ばれます。夏の夕暮れに鳴くイメージですが、秋の季語に分類されます。

八月十一日

今日の季語のご紹介は“流星”(りゅうせい)です。

季節問わず流れている流れ星ですが、秋の空にもっとも見ることができます。

流れ星が流れきる前に3回お願い事をするのは、意外と難しいものですよね。

八月十二日

今日の季語のご紹介は“枝豆”(えだまめ)です。

枝豆とは、未成熟な大豆を収穫したものをさします。

最近では、ヘルシーフードとして海外でも人気で、塩茹で以外にもガーリック炒めなど様々な調理法で食べられています。

八月十三日

今日の季語のご紹介は“迎え火”(むかえび)です。

お盆の十三日夕刻から夜にかけて、ご先祖様をお迎えするために焚く火のことをいいます。

八月十四日

今日の季語のご紹介は“盆踊”(ぼんおどり)です。

お盆の頃に仏供養のために踊られたのが始まりですが、今では夏のイベントとして定着しています。

八月十五日

今日の季語のご紹介は“花火”(はなび)です。

夏の夜の風物詩ですが、秋の季語になります。

中国が起源とされており、日本では江戸時代から本格的に作られるようになりました。

ねずみ花火や線香花火、仕掛け花火など、現在ではいろいろな楽しみ方があります。

八月十六日

今日の季語のご紹介は“大文字の火”(だいもんじのひ)です。

京都東山の如意ヶ嶽などで行われるお盆の行事で、五山の送り火の一つになります。

「大」の字の以外にも、妙法や舟形などのかがり火をおこし、お精霊さんと呼ばれる死者の霊をあの世へ送り届けます。

八月十七日

今日の季語のご紹介は“落花生”(らっかせい)です。

南米原産で、日本には江戸時代に渡来したといわれています。地中に実をつけることから「落花生」と名付けられました。

八月十八日

今日の季語のご紹介は“鬼灯”(ほおずき)です。

黄色の小さな花をつけた後、ガクが発達して果実を包みこみ、オレンジ色に熟します。

子供のころ、ほおずき笛で遊んだ記憶をお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

八月十九日

今日の季語のご紹介は“百舌鳥”(もず)です。

他鳥の声をよく真似るので「百舌鳥」と表記されるようになりました。

秋口に早鶯をすることでも有名です。

八月二十日

今日の季語のご紹介は“蘭”(らん)です。

春の季語の春蘭に対し、「蘭」は秋蘭をさします。独特の形をしているので、鑑賞価値の高いものが多く、栽培や品種改良が進められています。

八月二十一日

今日の季語のご紹介は“桃の実”(もものみ)です。

「桃の花」が春の季語なのに対し、「桃の実」は秋の季語です。

白桃系と黄桃系の二種類があり、薄い皮をむいた時にあふれる甘い香りと果汁が美味な果実です。

八月二十二日

今日の季語のご紹介は“地藏盆”(じぞうぼん)です。

地藏盆とは、地藏菩薩の縁日で町内の人々が地藏の像を洗い清めて祀る日です。全国的に行われていいますが、特に近畿地方で盛んです。

最後に振る舞われるお供えのお菓子を楽しみにしている子供達も多いのではないのでしょうか。

八月二十三日

今日の季語のご紹介は“残暑”(ざんしょ)です。

立秋を過ぎてからの暑さをさします。また、立秋を境に時候の挨拶も切り替わります。

八月二十四日

今日の季語のご紹介は“太刀魚”(たちうお)です。

諸説ありますが、外観が太刀に似てること。また、立泳ぎをすることから「太刀魚(立魚)」と名付けられました。かつては、太刀魚から採取した銀粉をラメとして、文具やお化粧品に活用していたそうです。

八月二十五日

今日の季語のご紹介は“胡桃”(くるみ)です。

日本にも自生していますが、北半球の温帯地域に広く分布しています。脂質・ビタミン・ミネラルなどが豊富に含まれており、非常に栄養価の高いことでも知られています。

パンやケーキに入っているのも、味わい深いですね。

八月二十六日

今日の季語のご紹介は“蜻蛉”(とんぼ)です。

全世界に約 5,000 種類、日本には 200 種類近くが分布していると言われています。幼虫時代は水中で過ごし、水辺の植物などに登って羽化し、綺麗な透明の羽をもった成虫になります。

八月二十七日

今日の季語のご紹介は“無花果”(いちじく)です。

原産地はアラビア南部で、不老長寿の果物とも呼ばれています。

そのまま頂いたり、乾燥させたり、ジャムやケーキに使用したりと、様々な用途があります。

八月二十八日

今日の季語のご紹介は“啄木鳥”(きつつき)です。

鋭いクチバシで木をつつくことから、「きつつき」と名付けられたとも言われています。古語で「けら」とも呼ばれていました。

八月二十九日

今日の季語のご紹介は“新米”(しんまい)です。

その年に収穫されたお米をさします。収穫されたてのピカピカ光るお米の美味しさは格別ですね。

八月三十日

今日の季語のご紹介は“秋の蟬”(あきのせみ)です。

夏の虫である蟬が、秋になってもまだ鳴いていることがあります。少し寂しげな鳴き声が耳に残りますね。

八月三十一日

今日の季語のご紹介は“蔦紅葉”(つたもみじ)です。

夏の間、鮮やかな緑を楽しませてくれていた蔦の葉も、秋には綺麗な紅色に変わります。

九月一日

今日の季語のご紹介は“秋曇”(あきぐもり)です。

秋といえば、天高いイメージですが、意外と晴れと曇りの周期が短く変化します。

九月二日

今日の季語のご紹介は“新蕎麦”(しんそば)です。

晩夏から初秋にかけて収穫したての蕎麦粉で打った生蕎麦をさします。

香り高い新蕎麦を楽しみにしている方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

九月三日

今日の季語のご紹介は“野菊”(のぎく)です。

野生している菊にみえる花の総称です。

多種にわたりますが、小さな優しい花をつけている風情は捨てがたいものがありますね。

九月四日

今日の季語のご紹介は“鶉”(つぐみ)です。

秋になるとシベリア方面より渡来し、全国各地で見ることができます。

九月五日

今日の季語のご紹介は“衣被”(きぬかつぎ)です。

里芋の皮を1/3ほどむかずに蒸したもので、仲秋名月のお供えものの一つです。

帽子を被ったように見える様が可愛いらしいですね。

九月六日

今日の季語のご紹介は“虫”(むし)です。

マツムシや鈴虫など、秋の夜に鳴く虫の総称です。

「虫の声」「虫の音」「虫時雨」など、綺麗な鳴き声を表す単語はいくつもあります。古来より虫の鳴き声は、秋の夜長の楽しみの一つだったのですね。

九月七日

今日の季語のご紹介は“吾亦紅”(われもこう)です。

山野に自生するバラ科の多年草で、秋に小さな紅い花を咲かせます。花言葉は「愛慕」です。

九月八日

今日の季語のご紹介は“案山子”(かかし)です。

田畑に設置して、鳥などから作物を守る人形や仕掛けをさします。近年では案山子コンテストなどが開催され、町おこしにも一役かっています。

九月九日

今日の季語のご紹介は“稻雀”(いなすずめ)です。

秋になり稲の穂が実りだすと、どこからともなく集まってくる雀の群れをさします。

九月十日

今日の季語のご紹介は“秋草”(あきくさ)です。

秋の七草をはじめ、秋に赴きを添える草花の総称です。

九月十一日

今日の季語のご紹介は“秋の七草”(あきのななくさ)です。

万葉集で山上憶良が謳ったことに由来すると言われています。現在では、桔梗・撫子・女郎花・藤袴・葛・萩・ススキをさします。

九月十二日

今日の季語のご紹介は“雁”(かり・がん)です。

秋になると北海道や東北地方に飛来してくる渡り鳥です。整然と並んで飛ぶ姿が美しく、画材や歌材に選ばれることが多いのではないのでしょうか。